

新収蔵資料紹介

2023.2
▼
2024.1

久留米藩士伊福家の什書

武家としての正当なる証

「伊福家資料（第2次）」

伊福家は、もとは筑前福岡藩の家老栗山大膳利章の家臣でした。黒田騒動で栗山家が寛永10年（1633）に失脚すると、伊福市太夫が初代久留米藩主有馬豊氏に召し出されました。市太夫を初代として、勝秋、勝之、勝郷、勝従、勝彬、勝壽、勝義、章雄と続き、亮足の代に明治維新を迎えます。10代にわたって、久留米藩士として仕えました。

本資料群は、江戸時代前期から明治時代にかけての古文書で構成され、総数59点（27通、23冊、9枚）を数えます。

このうち最も古いものは、寛永8年（1631）2月付けの宛行状です。内容は、栗山利章から伊福市太夫に対し、100石を加増するといふもので、知行高の合計は記されていません。



栗山大膳知行宛行状
本文に「為加増百石之地宛行畢、全可令領知者也」とある

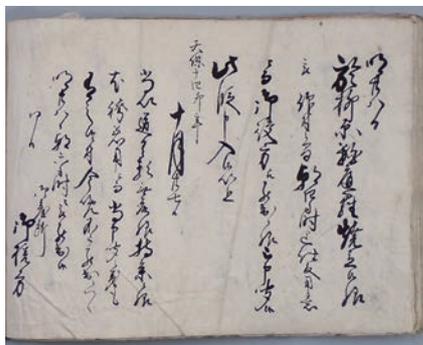
その後、市太夫は250石で豊氏に出仕し、天草・島原の乱（1637〜8）の戦功で加増され、計300石となります。さらに、勝郷の代の寛保元年（1741）、70石を加増されました。こうした知行宛行の文書は、2代藩主忠頼から9代頼徳にかけてのものが伝わります。

家系図や藩主書状など、武家としての正当性を示す什書が良く伝わり、江戸時代を通して久留米藩士・伊福家の由緒を辿ることができる貴重な資料群です。

御用菓子司「翠屋主水」相伝 藩主好みの菓子製法

「松木家資料（第3次）」

江戸時代、久留米城下の両替町（現城南町）で久留米藩主有馬家の御用菓子司を務めた松木家（屋号は「翠屋主水」）に伝来した資料群です。第1・2次（平成24・29年度）では菓子業の道具等32点、今回の第3次では古文書を中心とする8点（7冊及び1通）の寄贈を受けました。



御用被仰付一件御書渡之写
（文中に「久留米城内の柳原で「粕庭羅」（カステイラ）を焼くように」とある）

「御用被仰付一件御書渡之写」は安永7（1778）〜明治15年（1882）の文書を写してまとめ

たものです。家業修行道中の帯刀許可、「御用菓子司」看板の拝領、また、有馬家からの進物として、国元

では藩主菩提寺の梅林寺、江戸では徳川将軍家や他大名家に菓子を納めたことなどが記され、藩主御用司としての松木家の由緒をよく伝えています。



御菓子仕立之傳

「御菓子仕立之傳」には、さまざまな菓子について、色かたちが文字だけでなく鮮やかに描かれ、説明されています。また「萬御菓子控」という記録には、「千歳ずし」とついて「御このミは小豆あん也」と注記があり、11代藩主有馬頼咸の好みに応えようとする御用司の様子がうかがえます。

松木家資料の菓子業の道具と、文字や絵による記録をあわせてみると、江戸時代の菓子文化について、より詳しく知ることができます。